

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成25年6月5日現在

機関番号：12601

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2010～2012

課題番号：22520297

研究課題名（和文） 20世紀イタリア詩人ダヌンツィオのテキストと行動とメディア

研究課題名（英文） Studies on Texts, Actions and Media Consciousness of D' Annunzio, Italian Poet of 20th Century

研究代表者

村松真理子（MURAMATSU MARIKO）

東京大学・大学院総合文化研究科・准教授

研究者番号：80262062

研究成果の概要（和文）：

20世紀初頭に活躍したイタリアの作家ガブリエレ・ダヌンツィオの作品世界と生涯を、その詩的言語の先駆性とともに、社会的な意味での大衆との関係として検証した。そして、この作家がいかに同時代的に国境を越えて読まれていたかを明らかにし、未公刊資料・書簡等から、この作家のイメージや翻訳文学が20世紀的な文化においてどのような影響力と意味を有していたかを明らかにし、新たな考察を加えた。特に日本の同時代読者に関して調査を行った。

研究成果の概要（英文）：

This project of research has analyzed both the works and the life of Gabriele D'Annunzio, Italian writer internationally known and active at the beginning of the 20th century and has studied various types of documents to clarify how his poetical language and his life style together conveyed the ideals of poetics, esthetic and politics to the popularized reading public beyond the national boundaries. A particular attention has been paid on his popularity among contemporary Japanese readers.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2010年度	1,000,000	300,000	1,300,000
2011年度	600,000	180,000	780,000
2012年度	600,000	180,000	780,000
年度			
年度			
総計	2,200,000	660,000	2,860,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：文学・ヨーロッパ文学（英文学を除く）

キーワード：① その他のヨーロッパ文学 ② イタリア文学 ③ 比較文学

1. 研究開始当初の背景

(1) 19世紀末から20世紀初頭に活躍したイタリアの小説家・詩人ガブリエレ・ダヌンツィオは、晩年の時代背景と同時代状況への政治的な関与が影響し、作家としての評価が第二次世界大戦後、非常に限定的なものになった時期があったが、言語表現としての文学テキスト分析に限定せず、広くその行動やイ

メージを含めた作家の全体像をあらためて20世紀初頭の歴史背景の中で捉え直すことが現在可能になっている。特に、この作家の国際性に関し、同時代の日本での受領も含めて再検討する。

(2) この研究はダヌンツィオの作品と生涯の軌跡を、20世紀的な大衆社会と文学の枠組

みの中で捉え直し、今まで分離して考えられがちだった文学的価値や詩的言語の問題を、大衆や社会との関係の中で検証することで、より広範な作家研究をめざし、さらにこの作家を通じての20世紀文学と読者や社会との関係について考察する。

2. 研究の目的

(1) イタリア文学史上、現代詩の新しい詩的言語の創設とその音楽性という点では、1970年代以降再評価が進んでいたこの作家について、さらに作家の生きた同時代的な背景に位置づけつつ、どのような社会的政治的文脈において、この作家のことが意味をもっていたのか、文学という制度がどのような重要性をもちえたのかという観点から、再評価することがまず第1の目的である。

(2) さらに、この作家が先駆的に意識的に構築しようとした新聞をはじめとする情報、メディアとの関係や、「広告」の利用、政治的行動、自らのイメージの演出、生活における自己表現と美意識の実現などの側面に関して、従来の研究に多く見られたように、詩や小説のことがばとしての文学テキストと分けて考えるのではなく、一つの文脈の中で包括的に考察することが本研究の目ざすところである。

(3) その上で、文学というジャンル自体と、映画や音楽美術等の他の芸術運動との関係や、言語や国境の枠を越えた20世紀文化におけるこの国際作家の軌跡の意味を歴史的な文脈の中で再考する。

3. 研究の方法

(1) 創作期間の長いこの作家について、作品の書かれた年代とそれぞれの時代背景を考慮しながら、あらためて作品研究を行うことがまず最初の作業として重要である。その上で、その国際的な評価のうつりかわりを、当時の関連資料、書評、翻訳等を参照して再構築する方法を取る。

(2) 従来の先行研究と現在のダヌンツィオ研究の流れとを、研究者との交流や、イタリア国内の図書館アーカイヴでの調査を通して確認する。

(3) 実際に作家が残した資料や草稿、書評、読者との関係を示す書簡などが豊富に所蔵され閲覧調査が可能な、晩年の邸宅でもあるヴィットリアーレ図書館博物館での未公開資料調査を行う。日本でのダヌンツィオ受容については、作品の翻訳者・紹介者について、国内での研究者との意見交換および図書館資料館などで未公開資料も含めた資料の

調査を行う。

4. 研究成果

(1) ヴィットリアーレ財団・博物館長でダヌンツィオ研究の第一人者であるジョルダノ・ブルーノ・グエッリ氏、前館長でダヌンツィオ作品全集の監修者でもあるアンナマリア・アンドレオーリ氏、詩作品の研究で知られるニーヴァ・ロレンツイーニ氏との意見交換によりまず、最新のテキスト研究の成果および、評伝的文化史的な研究が重要性をもつ現在のダヌンツィオ研究の流れに本研究を位置づけることができた。そして、イタリア各地の図書館や資料館での調査から、ダヌンツィオの同時代の読者・大衆からの評価や国際的な人気について見直す作業を進めることができた。数回にわたるヴィットリアーレ図書館アーカイヴで行った調査の結果は、論文にまとめた。

(2) さらに、初期の散文作品から、中期の詩作品に見られる詩的言語の完成と、戯曲作家としての創作の展開については、作品研究と同時代批評の調査の両方から考察し、作家の国際的な人気と翻訳作品や、フランスでの作家の評価と同時代背景について考察する論文としてまとめた。

(3) この作家の有した国際的な側面として、特に、大正昭和の日本文学への翻訳作品が与えた影響と、文学者と社会との関係が日本においても非常に重要であったその時代における人気や評価について、従来の研究になかった視点と資料研究を提示することができた。中でも、今まで知られていなかったダヌンツィオとの関わりを示す、有島生馬、生田長江らの未公開資料、書簡をヴィットリアーレ図書館アーカイヴで発見したことは、大きな成果である。さらに日本近代文学館、鳥取県立米子図書館、日野町図書館、神奈川近代文学館、東京大学情報学環の新聞資料室等で、それらの作家とダヌンツィオとの関わりや当時の日本での評価、人気について、新聞記事、写真、手稿等の調査を行い、あわせて、研究者との意見交換を行った。そして、それらを基にした、日本文学とダヌンツィオ作品の受容に関して新たな分析と考察を展開することができ、その一部を論文にまとめた。

日本においては20世紀の初頭に詩人としていわゆる「文学青年」たちがダヌンツィオ作品を英語フランス語ドイツ語訳を通して読み、さらに日本語への翻訳がなされるようになっていく。それが1910年前後に、小説家として広く読まれ、作品のスタイルが生活の中に模倣されるまでになる風俗への影響までが見られるようになる。そして、第一次世界大戦への志願兵としての関わりや、戦後の

フィウメ占拠という行動が日本で知られるようになると、この作家の人気はまさに国民的なものとなったことが、当時の報道や、ヴィットリアーレに残されている書簡等からうかがわれ、日本の読者、大衆における人気は作家が亡くなる1930年代まで続いたことが検証できる。作品の読まれ方と作家像の受容がどのように変遷し、読者がどのように広がっていったかを、具体的な資料から明らかにし、時代背景の中での文学の読まれ方と、「詩人」と社会の関係の変化をたどることができた。

(4) 小説、詩という文学テキストから発し、劇場空間を越えて、さらに公共の場での政治的な演説から、第一次大戦後のフィウメを占領するという行動にいたり、晩年には私的空間である「家」において美意識を表現したこのダヌンツィオという作家の足跡をたどることで、20世紀の文学テキストと言葉が、いかに大衆的な社会にむけて発信し、関係を取り結ぶことが可能となったかを考察することとなった。

(5) 本研究の今後の展望と計画：これらの成果は、当研究計画期間中および終了直後、論文のほか、4回の招待講演という形で、イタリアの国際シンポジウム等において発表することができ、イタリアにおいても新しい発見や国際的な文脈における分析として高い評価を得た。日本においては、戦後から現在まで見落とされて来たこの作家が大正昭和の日本文学にどのような影響を与えたのかをあらためて見直す作業につながるはずである。さらに、戦後の三島由紀夫の文学や行動との関わりについて、逸話的な比較に限定されない新たな比較研究の視点が可能となるだろう。

現在、それらを評伝的な観点を取り入れて一冊の本としてとめる単著を準備中である。また今後、この作家の作品と実践したさまざまな活動をたどり、文学の国際性と翻訳の問題および大衆社会における「ことば」とメディアの関係としてとらえ、新たな基盤研究(C)「ダヌンツィオと同時代文化—二十世紀世界文学の翻訳可能性と大衆・社会・政治」として発展させる予定である。その一環として、論文、著書等の活字媒体だけでなく、作家の軌跡を紹介し、当時のさまざまな時代背景を示す資料をあわせて展示する展覧会を開催して、より広く成果発表を行う計画であり、すでに準備段階に入っている。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計3件)

① 村松真理子、「21世紀初頭の日本とダンヌンツィオ—「ヴィットリアーレ」所蔵資料から」、《Odysseus》, 東京大学大学院総合文化研究科地域文化研究専攻, n. 15, 2011, pp73-93.

② Mariko Muramatsu, *Ota occidentale di Gabriele D'Annunzio, ovvero quando la metrica giapponese plasma la poesia italiana*, in Edoardo Crisafulli, Maria Katia Gesuato (a cura di), *Una lingua per amica l'Italiano nostro e degli altri*. Atti della settimana della Lingua Italiana nel Mondo, Istituto Italiano di Cultura, Tokyo, 2011, pp. 98-108.

③ 村松真理子「ガブリエレ・ダンヌンツィオの『聖セバスチャン』をめぐる」、《文芸研究—明治大学文学部紀要》, n.114, 2011, pp.203-217.

[学会発表] (計4件)

① Mariko Muramatsu, *D'Annunzio aspettato in Giappone* [日本で待望されたダンヌンツィオ], Festa dell' Inquietudine [フェスタ・デル・インクイエトウデインネ], 2013. 6. 1, イタリア, フィナーレ・リーグレ, (招待講演, イタリア語での発表) .

② Mariko Muramatsu, *D'Annunzio in Giappone* [日本におけるダンヌンツィオ], Convegno Internazionale per i 150 anni dalla nascita di Gabriele D'Annunzio [ガブリエレ・ダンヌンツィオ生誕150年国際シンポジウム], 2013. 3. 13, イタリア, ペスカーラ (招待講演, イタリア語での発表) .

③ 村松真理子, 「ダンヌンツィオと日本—友則、雷鳥、三島」, 2012. 01. 27, 東京 (南青山会館), イタリア研究会 (招待講演)

④ Mariko Muramatsu, *Il corpo nella letteratura di Gabriele D'Annunzio e di Yukio Mishima* [ダンヌンツィオと三島の文学における身体], イタリア哲学協会主催哲学フェスティヴァル *Francavilla Filosofia al Mare. Pensare il corpo* [フランカヴィッラ海辺の哲学, 身体をめぐる思索], 2011. 7. 9, イタリア, フランカヴィッラ市 (招待講演, イタリア語での発表) .

[図書] (計2件)

① Mariko Muramatsu, *UTCP, Segni e voci dalla letteratura italiana. Da Dante a D'Annunzio*, 2013, 143p.

② 村松真理子 (監修および翻訳), 『旅 テキストへ/テキストから -文学・哲学・歴史をめぐる現代イタリア・地中海からの発信』 (UTCP Booklet 227, Tokyo, UTCP, p.154, 2012.

[その他]

① レクチャー・コンサート (企画・司会・通訳 村松真理子)、「ダンヌンツィオ生誕150周年 記念講演・演奏会 ダンヌンツィオとトスティー音楽と詩の出会いとところ〜」、東京大学教養学部駒場博物館主催、イタリアトスティ協会・日本トスティ協会共催、2013.4.8, 東京大学教養学部駒場キャンパス

② 展覧会 (監修 村松真理子)「ダンヌンツィオに夢中だった頃-ガブリエレ・ダンヌンツィオ生誕150周年記念展」、東京大学教養学部駒場博物館主催、2013.10.19より同館にて開催予定

6. 研究組織

(1) 研究代表者

村松真理子 (MARIKO MURAMATSU)
東京大学・大学院総合文化研究科・准教授
研究者番号: 80262062

(2) 研究分担者

なし ()
研究者番号:

(3) 連携研究者

なし ()
研究者番号: